

特別活動研究部会

I 研究テーマ

「生きる力を育てる特別活動」

II 研究テーマ設定の理由

学級活動，児童・生徒会活動など特別活動の各内容は，児童・生徒が自発的，自主的に取り組みやすい活動内容から構成されている。

特別活動には，お互いにふれ合い，協力し合い，認め合うとともに，自己を正しく生かす場や機会が多く，さらに，集団の一員として，なすことによって学ぶ活動を通して，自主的，実践的な態度を身に付けられるという教育的意義もある。総合的な学習の時間と補完し合って，「生きる力」を育てる重要な場と機会が，特別活動には多く設定されていると言える。

しかし，実際の学校生活では，限られた時間の中で，児童の自発的，自主的な活動の場や機会が必ずしも保障されていないという問題点も指摘されている。特別活動本来の目標でもある，義務教育9年間における，それぞれの学年の発達課題の達成や望ましい集団活動の充実のためには，教師の意図的・計画的な働きかけや指導の創意工夫が今まで以上になされなければならない。

そこで，それらの課題の解決をめざし，本来あるべき特別活動の姿を求めるために，本テーマを設定した。

III 研究の経過と内容

1 研究の方法

- (1) 研究テーマを受けて，各自が特別活動における課題に取り組み，実践報告を行う。
- (2) 実践報告は，計画段階から実践終了後の反省まで，取り組みの過程がわかるように作成し，子どもの姿が見えやすいものをめざす。
- (3) 各所属校の児童会・生徒会活動や学年・学級の実践事例についての情報交換や資料の提供などは随時行う。
- (4) 各自の実践報告および討議の時間とは別に，必要に応じて特別活動に関する内容や総合的な学習の時間の事例との関わりなどについて討議する時間を確保する。

2 研究の経過

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| 4月10日 | 第1回部会 | 役員選出，年間活動計画立案，研究テーマ・方法の決定 |
| 5月15日 | 第2回部会 | 活動計画及び内容の確認，実践レポートのテーマ確認 |
| 6月17日 | 第3回部会 | 実践報告と討議<提案(1)・(2)> |
| 8月7日 | 第4回部会 | 実践報告と討議<提案(3)> |
| 8月20日 | 第5回部会 | 実践報告と討議<提案(4)・(5)> |

- 9月 4日 第6回部会 実践報告と討議<提案(6)・(7)>
10月 2日 第7回部会 県教研に向けてのレポート検討<提案(4)>
11月 4日 第8回部会 県教研還流報告
1月27日 第9回部会 研究のまとめ、来年度に向けて

3 研究内容

(1) 「みなおそう かかりのしごと」

小学1年生が学校生活に慣れてきた9月。「かかりのしごと」を1年生なりに見直して、よりよい学校生活を送れるように取り組んできた実践。「かかりのしごと」を毎日が楽しく過ごせるように親しみが持てるようにと「○○やさん」というネーミングで考えを出し合い、どうして「○○やさん」がいいのかの理由も言えたら言ってみようにした。その結果、「うたごえやさん」「かざりやさん」「ほめやさん」等、楽しそうな係を作り、実際に活動した実践。

(2) 「林間学校～修学旅行を考える」

～行事を通して自分を見つめ、友だちとふれ合い、お互いの力を高め合おう～

昨年度からの持ち上がり学年。林間学校でのフリータイムの経験から、修学旅行での班づくり、自主見学コース設定、体験学習設定など、子どもの自主性を育てようと試みた実践。

(3) とともに育っていける学級をめざして・・・その後

昨年度から持ち上がり、子どもたちとの関わりは3年目となった。課題を抱える子どもたちや知的障害の子どもたちとの温かい人間関係が築けてきた。学級目標の話し合い、二次障害的言動への対応、家庭環境の変化に退行する事例、お楽しみ会の企画など、学級での取り組みを通して、個の変容をみとりながら、学級づくりを進めていった実践。

(4) 学んできた力を2分の1成人式で発揮する

3年生、4年生と持ち上げてくる中で学級活動の話し合い方や進め方を学ぶ事からスタートした子どもたち。日々の学級活動の中で、企画、提案、実践、反省を繰り返す中で高めてきた力を4年生のまとめである「二分の一成人式」の成功に向けて発揮させていく実践。本年度県教研レポート。

(5) 「もっと仲良く楽しいクラスにするために」

児童は昨年度1年生からの持ち上がりの学級で担任だけ替わった。比較的落ち着いた子どもたちではあるが、担任が替わったことへのとまどいや友達との人間関係のストレスを感じている子どもも少なくない。QUテストの結果を分析し、構成的エンカウンターや問題解決のための話し合いを重ねる中で、お互いのよさや自分自身が認められることで居場所を確保する安心感を味わわせ、クラスの結びつきを強くしてきた実践。

(6) とともに輝くクラスを目指して

昨年から持ち上がりの高等部(支援学校)の学級である。昨年度は新しい環境に慣れ、学校生活の様々な場面で少しずつ自己発揮できるようになってきた。そこで、学級テーマに北斗七星を設定し、集団への意識を高め、協力や協働の大切さを実感できる取り組みを行った。日々の生活や校外学習などの中で、仲間のために自分の苦手に挑戦しようとする意欲が育まれた様子記録した実践。

(7) 「学級作りに役立つミニゲーム」

本年度はクラス担任ではないので、先生方が学級作りに役立つようなゲームを洗い出した。学級作りにゲームを生かしていくと、学級が明るくなる。男女の仲が良くなる。ひとりぼっちの子が減っていく。勝敗や得点を競い合っていく中で連帯感が育っていく等、利点がいくつもあることがわかった。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

○互いの実践発表から検討を通じて、

- ・異なる校種のメンバーが意見交換することで、教育観や指導観が広がった。
- ・学級づくりの意図や段階性を話し合うことで、互いが実践への糸口を得た。

○県教研の環流レポートの検討が勉強になった。

2 研究の課題

○部員相互の研究の深まりと同時に、広がりを探る立場で研究を推進する。